

2024年12月4日

## 輸入記者会見ご挨拶文

(はじめに)

理事長の磯野でございます。まずは、年末のお忙しい中、年末恒例の記者会見にご出席頂き、深く感謝申し上げます。会を始めるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

輸入記者会の皆様におかれましては、日頃より輸入洋酒業界はもとより酒類業界の発展にご理解・ご協力を賜わりまして、誠に有難うございます。特に、ボジョレーヌーヴォーワインの解禁日遵守や製造ロット番号削除問題の記事掲載をはじめ、この一年間、大変お世話になりました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

また、皆様方の選ばれる輸入洋酒業界の重大ニュースの発表を今年も楽しみにしております。

(一年を振り返って)

さて、今年一年を振り返りますと、先ず、災害や異常気象の怖さを痛切に感じた一年でした。年明け早々の能登半島地震及び豪雨災害のほか大きな災害が国内で発生しました。酒類業界関係者を含め多くの方が被災もされました。改めて心よりお見舞い申しあげます。世界のワイン生産などに見られるよう、気候変動がいかに社会に大きな影響をもたらすか認識させられました。

また、酒類業界の状況に目を向けますと、飲酒に関するイベントも各地で盛んに開催されるとともに、コロナ禍の意識も薄れ、インバウンド需要もあり、外食産業の売上も対前年比で伸びていると聞き及んでおります。業務用が中心である輸入洋酒を扱う者として、大変喜ばしく思っているところです。

一方で、2024年物流問題へ対応する「物流総合効率化法」及び「貨物自動車運送事業法」の改正法やアルコールと健康問題を主な主題とした「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」など、酒類業界へ影響のある法令などの公布、発出があり、ターニングポイントになった一年になるのではないかと考えております。特に、アルコールと健康問題は、SDG'sの目標にも関連する世界的に重要な共通テーマであり、今後十分留意していく必要があります。

(輸入洋酒業界の現状)

洋酒の輸入状況を見ますと、一時期と比べて落ち着いてきてはいますが、円安、資材費用や輸送費の高騰が、商品価格に影を落としております。輸入数量はこの

5～6年で約14%減と大きく減少し、対前年比でもマイナスです。一方、輸入金額は約30%増と大幅に増加しています。これは単に円安、資材費用の高騰、輸送費の増大の影響で輸入金額が増加しているに過ぎず、複雑な国際情勢も絡み輸入品のコスト高は続くものと懸念されます。この様に輸入洋酒業界は、引き続き厳しい状況にあります。

協会といたしましても、輸入洋酒市場が長期低迷に陥ってしまうことのないよう、今後の推移を見守っていきたいと考えております。

10月の政府の月例経済報告の基調判断では、景気は一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復し、先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待されるということです。厳しい政権運営の中、石破新政権には、デフレ脱却最優先の経済・財政運営を目指して補正予算を早期に成立され、景気が回復することを期待してやみません

#### 【参考】洋酒の輸入状況（10月累計値）

輸入数量：2019年比：合計▲13.5ポイント、ワイン(20容器以下)▲14.8ポイント  
対前年比：合計▲0.8ポイント、ワイン(20容器以下)0.8ポイント  
輸入金額：2019年比：合計30.1ポイント、ワイン(20容器以下)29.8ポイント  
対前年比：合計2.0ポイント、ワイン(20容器以下)2.3ポイント

#### （日本洋酒輸入協会の活動）

ところで、当協会もこの一年間、様々な活動を行って参りました。昨年10月のワインの増税、円安、資材費用や輸送費の高騰などによる洋酒の輸入状況を踏まえ、果実酒の減税を関係当局に要望いたしました。また、健康被害の発生時などの商品回収などに有用で、消費者の安心・安全に不可欠である識別番号いわゆる製造ロット番号が故意に削除された酒類が輸入販売されている問題については、現状からすると行政指導のみでは問題解決は困難です。引き続き、製造ロット番号削除品への法的措置の実現に向けて、国税庁などに継続して働きかけを行って参ります。

その他、4月3日「輸入洋酒の日」記念セミナーでは、日本をはじめ世界で成長を続けるウイスキーワールドの潮流に加え、アルコールと健康問題に対する社会的関心の強まりを受け、世界的なアルコール戦略と健康との関連に触れつつお酒と社会のあり方について、第一人者の方々に熱く語っていただきました。会員以外の皆様にもご視聴いただき、酒類業界の活動や課題、特に、アルコールと飲酒に関する問題への取組の現状に触れていただけたのではないかと考えております。

更には、日本貿易振興機構主催の「ウクライナ酒類企業向けオンラインセミナー

一」をはじめ、駐日カナダ大使館やマルタ大使館主催のウェブセミナーでは、日本の酒類市場の動向や特性について説明させていただくとともに、2月にはウズベキスタンのムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ駐日大使、11月には韓国洋酒輸入協会マ・スン Chol 会長と、両国の酒類業に関する有意義な意見交換を行いました。

今後とも、酒類業界が抱える課題に対して、微力ながらも他の酒類業団体とも協力しながら、国内の洋酒業界ひいては酒類業界全体の発展に寄与していきたいと考えております。

(おわりに)

結びになりますが、改めて本年のご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、新年が皆様にとりまして充実した素晴らしい年になることを祈念いたしまして、私の冒頭のご挨拶とさせていただきます。